

令和2年度 学校評価 評価項目等

★太枠は本校の本年度の重点課題

能登町立鷹川小学校

学校経営目標	具体的取組	進捗番号	実現状況の達成度判断基準	時期・評価材料	アンケート番号	評価	第1回自己評価	第2回自己評価	取組状況改善案等		
① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組	1	4教科の単元末テストで、当該単元の目標通過率(80%以上)を達成できている。	●達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	4教科「単元末テスト」の点数の平均値	15	研究	B	B	1学期 国語=82.4% 算数=93.0% 社会=89.2% 理科=91.9% 2学期 国語=85.9% 算数=85.9% 社会=94.6% 理科=91.9% ●授業者の日頃の授業の成果、子どもたちのがんばりが表れた。 ●3教科同時に進められた。算数科に関しては、内容が高度になるので低下は免れないが、弱点のまま年度に連続させないよう、CRTテストで児童の苦手を把握し、動室タイムで補充学習に取り組む。	
		2	『漢字力テスト』において、各学年の目標通過率(90%以上)を達成できている。	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	年間5回「漢字力テスト」の点数	16	研究	B	A	1学期: 4.7人 2学期: 5.2人 ●繰り返し学習してきたことが定着してきた。 ●引き続き、継続して取り組んでいく。	
		3	『計算力テスト』において、各学年の目標通過率(90%以上)を達成できている。	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	学期末「計算力テスト」の点数	17	研究	B	A	1学期: 4.8人 2学期: 5.2人 ●動室タイム、ドリルの直しの徹底が功を奏した。 ●引き続き、ドリルの直し、動室タイムの有効活用を通して、技能、知識を定着させていく。	
	② 主体的に考え、学びを合立させる取組	基礎的・基本的な内容の確実な習得を図り、自分の考えを表現できる児童を育成する。自ら学び、自ら考え、相手意識を持って学び、伝え合う児童を育成する。	4	学力向上プラン「目指す姿(授業)」をイメージして、授業を行い、学力の向上を図っている。 ★【学校研究の視点】	アンケートの「肯定的な評価」の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	1	研究	A	A	●研究授業の様子を見ていても、児童は理解しようとする態度に取組んでいく。原動問題の取り組み状況も100%であることから、難しい原動問題に継続して取り組んでいたことが伺える。 ●原動問題に繰り返し取り組むからこそ、児童理解に違い部分にはつきり、定着の不足分も露呈される。つまり、それがはつきりするとは「わかったつもり」が解消されるきっかけになる。また、そのような原動問題に繰り返し出会うことで、難しい問題場面を自分で見通しをもち、数理的に処理できるようになってくる。継続して原動問題に取り組んでいくことが、児童の成長に繋がる。
			5	★【学校研究の視点】	●自分の考えをノートに書いている。アンケートの「肯定的な評価」の割合(児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	2学期末 児童アンケート	6	研究	A	A	●研究授業の様子を見ていても、児童は理解しようとする態度に取組んでいく。原動問題の取り組み状況も100%であることから、難しい原動問題に継続して取り組んでいたことが伺える。 ●原動問題に繰り返し取り組むからこそ、児童理解に違い部分にはつきり、定着の不足分も露呈される。つまり、それがはつきりするとは「わかったつもり」が解消されるきっかけになる。また、そのような原動問題に繰り返し出会うことで、難しい問題場面を自分で見通しをもち、数理的に処理できるようになってくる。継続して原動問題に取り組んでいくことが、児童の成長に繋がる。
			6	学力の向上プラン「目指す姿(基盤)」を達成できるよう、取組を理解し実践している。 ★【学校研究の視点】	アンケートの「肯定的な評価」の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	2学期末 教員アンケート	2	研究	B	A	●動室タイムを継続して取り組んでいるおかげで、研究授業を通して子ども、児童たちの発言の雰囲気が良い。 ●動室タイムで取り入れるべき場面、教師のフシリワードの意識をもって、児童全員が発言でき、活発に話し合う授業を形成していく。 ●言われなくても、単元末テスト、原動問題等で自分で様子を引いている児童を認めている。
			7	★【学校研究の視点】	●わかっていないことを、書いていることと書いている児童の割合(児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 児童アンケート	5	研究	B	B	●動室タイムを継続して取り組んでいるおかげで、研究授業を通して子ども、児童たちの発言の雰囲気が良い。 ●動室タイムで取り入れるべき場面、教師のフシリワードの意識をもって、児童全員が発言でき、活発に話し合う授業を形成していく。 ●言われなくても、単元末テスト、原動問題等で自分で様子を引いている児童を認めている。
			8	タイムマネジメントを意識して、授業改善に取り組んでいる。 ★【算数科において: 3問完結】	アンケートの「肯定的な評価」の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	2学期末 教員アンケート	3	研究	B	A	●あれもこれも無理なので、授業毎に指導者は、「今日は原動問題の共通9分分」、「今日は練習問題11分」などの目標を持って授業に取り組んでいく。目標を持って取り組んだことに対して、自分で成果と課題を持って、3問完結へと到達してほしい。
			9	「三角ロジック」等の話型、聞き方のスキル等)、学習用語を使っている発表の仕方、話し合いの仕方の指導などの児童の表現力を高める手だてを意図的に行っている。	●話し合い等で、自分の考えを伝えることができるように感じている児童の割合(児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	2学期末 児童アンケート	7	研究	B	A	●研究授業を継続して、どの学年もペアでの話し合いが活発であった。 ●全体での話し合いのレベルを向上させるべく、引き続き話し合いの場面に積極的に取り組んでいく。すくなくには目標まじい成長は見えないが、徐々に効果は出てきているので、継続して取り組む。
			10	児童は、授業を通して身に付けたことを、次の学習や実際の生活で役立てることができたと意識している。	アンケートの「肯定的な評価」の割合(児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	2学期末 児童アンケート	11	研究	B	B	●算数科の学習アンケートでは78%から89%へと顕著な伸びを示していた。算数科に関しては、学習が自己の生活の何に生かされているのかを振り返らなければならない。 ●振り返りを書かせることで、生活のどの部分に繋がっているのかを感じるきっかけにもなる。生活にもとづいた原動問題、振り返りを書かせることで、生活へと視点を誘った。
			11	校内「活用力問題」で、目標通過率(60%)を達成できている。	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	2学期末「活用力問題」の成績	18	研究	D	A	●問題場面を数理的に捉えることができている。 ●指導の理解力に二極差が出はじめている。後期プランの見直しを行い、問題解決への糸口を理解させていく。
			12	児童の家庭学習のめやすの時間が守られている。(1年:20分,2年:30分,3年:40分,4年:50分,5年:60分,6年:70分)	アンケートの「肯定的な評価」の割合(児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	2学期末 児童アンケート	16	教務	A	A	●1学期に引き続き、「パワーアップ週間」を設けた。その際、学級の目標を立てることで、学級全体で取り組む意識付けができた。 ●児童アンケートにおいて、「まだはならない」とした児童がいるので、問題点を洗い出し、適切な量と質になるようにする。
			13	『家庭学習の手引き』等を活用して家庭学習の内容、方法等について具体的に指導し、児童が何をどのようにすればよいのかを明確にして、家庭学習の定着に努めている。	アンケートの「肯定的な評価」の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	5	教務	A	A	●「パワーアップ週間」の結果を共通理解することにより、指導の改善を図った。 ●学習ノートの取り組み方の共通理解を図る。 ●ゲームの時間が長い児童がいるので、減らす取組を行いたい。
			14	『家庭学習の手引き』等を活用して家庭学習の内容、方法等について具体的に指導し、児童が何をどのようにすればよいのかを明確にして、家庭学習の定着に努めている。	アンケートの「肯定的な評価」の割合(保護者アンケート) A: 80%以上 B: 70%以上80%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	2学期末 保護者アンケート	11	教務	A	A	●「パワーアップ週間」の取り組みを行った。家庭と連携をし、取り組むことができた。 ●今回わずかながら、肯定的な評価の割合が下がっている。児童アンケートと保護者アンケートの結果から、特定の児童を考慮するが、学校全体で取り組み方を考え、家庭と連携して取り組んでいく。
			15	『うかわっ子の学習ルール』をもとに、全校一致して指導にあたっている。	アンケートの「肯定的な評価」の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	6	教務	A	A	●各学級で継続して取り組むことができた。ルールが曖昧になっているときには、朝の会、学級活動で児童と一緒にルールの確認を行った。 ●今年も学習ルールの確認と必要性を問う取組を続ける。
			16	『読書冊数年間100冊以上』等の啓発活動において、目標値を達成できている。	A: 80%以上が目標達成できた B: 70%以上80%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	2学期末の読書記録等、学校全体としてのデータをもとにする	19	図書	A	C	2学期(終了時点)貸出冊数75冊以上の児童 35名(61.4%) ●児童の現状を把握して、個別に目標を持たせる。また、担任、図書委員が定期的に声掛けを行う。 ●子ども読書リーダーを行う。 ●図書室のおすすめコーナーを増やし、お知らせをするなど、啓発活動を行う。
			17	『模擬授業』、『研究授業』、『校内研修サポート事業』、『要請訪問』、『校内ショート研修』の活用等により、授業力の向上が図られている。	アンケートの「肯定的な評価」の割合(教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	7	教務	A	A	●模擬授業や校内研修によって、学校研究の具体的な取組を理解することができた。模擬授業の目的を明確にし、取り組んでいる。模擬授業では、自分が思いつかない考えや提案方を考えることができ、普段の授業実践に生かしている。 ●ICTの研修を実施する必要がある。

2	⑧	18	児童理解の会での共通理解と共通指導の徹底、人間関係づくりに関する校内研修会の開催等により、児童のよりよい人間関係の構築に努めている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	8	生徒指導	A	B	●困ったり、判断に迷ったりする場合は、すぐに話せる環境ができています。 ●児童アンケート以外の細かい内容も共通理解し、共通指導につなげることができています。 ●共通理解の時間だけでなく、支援策を話し合う時間を十分にとることができるようにしています。 ●児童間のつながりを意識した話し合いをしていく。
		19	学校訪問や学校公開時に積極的に保護者や地域の方々に道徳の授業公開を行っている（1回以上）。	授業公開を行った教員の割合 (教員アンケート) A: 80%以上公開 B: 60%以上80%未満 C: 60%以上50%未満 D: 50%未満	2学期 授業公開を行った回数		道徳	D	A	●教育ウィークにおいて、道徳の授業を全校公開することができた。また、他の授業参観時にも道徳を公開する学校もあった。
		20	道徳の授業では、学校行事や特別活動、実生活等との関連付けをしながら、道徳的な実践力が高まるように努めている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	9	道徳	B	A	●生活と結び付いた話し合いができるようになってきた。 ●「今までの自分」「これからの自分」について振り返ることができるようになってきた。 ●自分の経験と結び付けられる場面で、子ども自身から経験が出てこない場面があった。終末において、今までの行事の写真を学校の思い出の写真を一つのファイルとしてまとめておき、活用できるようにする。写真がない場合は、思い出が想起できるように画像データをファイルに入れておく。
		21	ゲストティーチャー、地域人材、外部講師などを活用した授業づくりを行っている。	外部講師等を活用して授業を行った教員の割合（学期に2回以上） (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 外部講師等を活用しての授業を行った回数	20	道徳	D	D	●職員への呼びかけが不十分だったところがあるので、ゲストティーチャー活用計画案を指示帳に書き添えておき、3学期の活用計画や、活用した場合にどのような活用をしたのかを書いてもらい、「見える化」を図る。
3	⑩	22	児童は、「早寝・早起き・朝ごはん」が身に付き生活習慣の確立が図られている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 保護者アンケート	9	保健	B	B	●2学期に全学年で学級指導を実施した。 ●朝ごはんの栄養バランスが良好で、10時まで寝る子が2年前に比べ少なくなっているが増えている。 ●今後も計画的に学級課題に応じた保健指導を行う。
		23	児童は、挨拶が身に付き生活習慣の確立が図られている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 保護者アンケート	8	生徒指導	A	A	●学校がなくても自分からあいさつをすることができる児童が増えている。 ●ネット、ゲーム等長時間使用している児童もおり、保護者と連携しながら指導を続けていく。
		24	児童の歯や口の健康についての児童の意識を高めるとともに、う歯の治療に関する目標値を達成できている。	達成できている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	学校全体としてのデータをもとにする		保健	D	C	う歯治療率=75.0%(後5人で全員完了) ●1学期に引き続き、2学期も個人懇談の際に治療の保護者に対して、面談を行った。 ●児童保健委員会などを活用し、啓発活動を行う。
		25	『体力アップ!校プラン』、『スポチャレ』等による体力向上の取組を計画的に行っている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	1学期末 教員アンケート	10	体育	A	A	●今年度がスポチャレに意欲的に取り組んでいる。 ●授業中に課題が見られる。感染症対策をたたくうえで、スポチャレのシャトルボールに取り組む。
4	⑬	26	HPの更新、学校だよりや学級だよりの定期的な発行等を通して、学校での教育活動の様子を積極的に伝えようとしている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 保護者アンケート	18	教頭	A	A	●今年度、HPの構成を変更し、分担して更新することでタイムリーな学校での出来事をアップすることができた。 ●学校だよりや学級だよりを通して、学校や児童の様子を伝えることができた。
		27	地域の素材を元に学習活動や海洋教育を行ったり、地域の人材を活用したりして、『ふるさと学習』を積極的に展開している。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	11	教務	B	B	●生の声を聴いたり、見学に行ったりすることで子どもたちの学びが積極的になり、地域への思いも深まった。「いる」について、講師を招いて海洋教育を行った。 ●3学期では、道徳・社会・総合的な学習の時間で計画に基づいて実施していく。
5	⑮	28	避難訓練や防災訓練等を通して、非常災害発生時の緊急行動、避難行動の仕方等を理解し身に付けることができている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (児童アンケート) A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	12	教頭	A	A	●事前指導→訓練→事後指導を行うことで、児童は行動の仕方を理解し、身に付けることができた。訓練を繰り返すこととなった行動を自分で考えられるようになってきた。 ●地震・津波を想定し、旧駒川小学校まで避難訓練を行った。様々な設定での避難方法を考える良い機会となった。 ●3学期に避難訓練の手足はないので、朝の会などで避難行動の確認を行う。
6	⑯	29	最終退校時刻を意識し、業務改善・効率化に努めている。	アンケートの『肯定的な評価』の割合 (教員アンケート) A: 85%以上 B: 70%以上85%未満 C: 60%以上70%未満 D: 60%未満	2学期末 教員アンケート	13	教頭	A	A	●時刻を意識し、業務の優先順位を付けて取り組んだ。 ●冬休休業中に3学期の見直し・準備を行った。 ●引き続き、行事や提出物等、年間を通して決定しているものは、計画的に事前準備を行う。

学校関係者評価委員会での評価と意見聴取

<p>学校関係者評価委員会での評価と意見聴取</p>										
----------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--